



目標 槍ヶ岳(3,180m) 全日程 12月25日～12月29日 メンバー 土橋、中野、中山  
予定ルート 新穂高より槍平ベース 中崎尾根より登頂、飛騨沢を下降、撤収 新穂高へ下山  
(所感)

結論からいうとあっけなく敗退してしまった。やはり、厳冬期の槍ヶ岳は甘くない。率直にそう感じた。このクラスの山に挑むには、圧倒的に体力不足である。今後は、漫然とトレーニングをするのではなく、課題を持って行う必要がある。

#### (行動記録)

かねてより天気チェックを重ねていると、27日にてんくらAが表示されており、この日に山頂アタックができるようにメンバーと協議。北九州発を25日19時とした。以下行動記録をまとめたものである。

#### 25日(金)

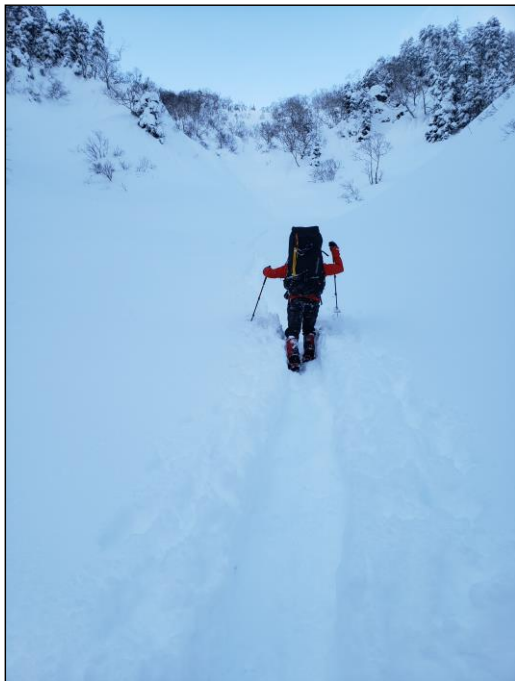
19時半過ぎに北九州を出発。交代で運転、仮眠をとりながら高山市街に翌5時頃到着。道路の状態は良く、渋滞もなかった。

#### 26日(土) 天候 曇り時々雪

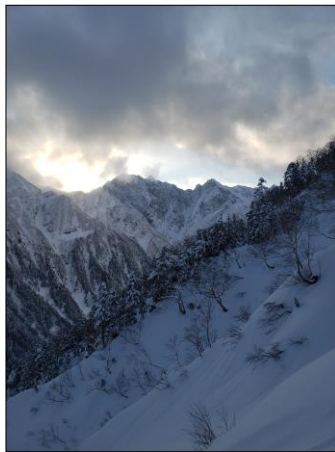
8時半頃に新穂高登山口より入山。この時期としては気温が高く、時折、ボタン雪が舞う。湿雪の右俣林道を進む。しっかりとしたトレースはあるものの、毎度のことながらザックが重たく感じ、行き足は遅い。10時過ぎに穂高平小屋、12時過ぎに白出小屋付近を通過。つぼ足からワカンに履き替える。滝谷非難小屋に到着したのは14時半を回っていた。しばしの休憩後、沢を渡渉する際に、中野さんが転倒、足を濡らしてしまった。日没時間を考慮して滝谷非難小屋に宿泊。怪談で有名な山小屋である。遭難者をここに安置し、茶毘に伏した場所と聞く。そうならないように常に緊張感を持たねばならない。水を作り、食事を摂り、3人で明日の計画を練る。この時点で登頂は厳しいと判断した。他には、単独行者が1名だけで、広い小屋ではないが、足を延ばして寝れるのはありがたかった。



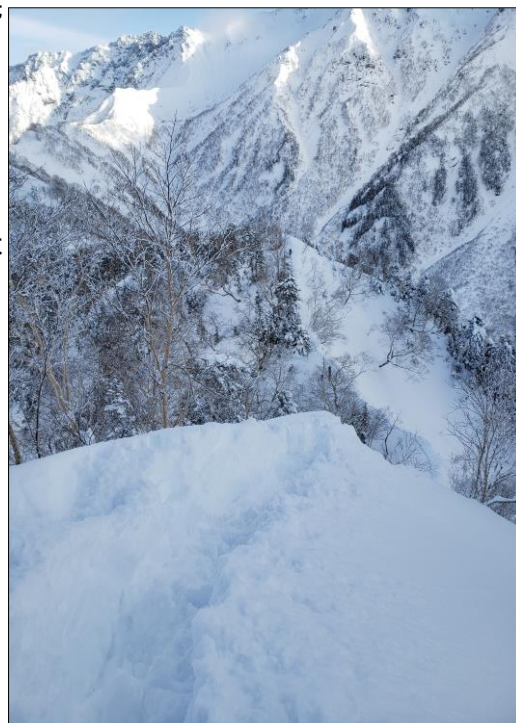
27 日(日) 天候 曇り後晴れ



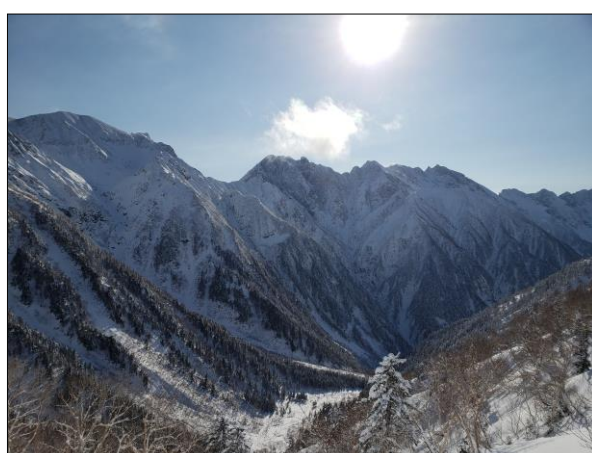
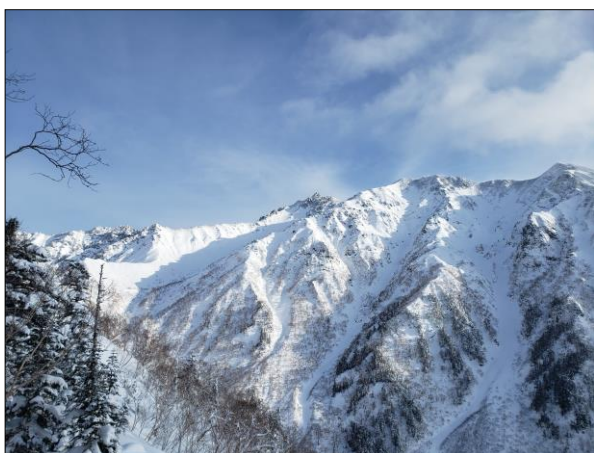
3 時半過ぎに起床。小雪が舞っている。朝食を済ませ、4 時半過ぎに滝谷非難小屋を出発。危険な渡渉点には別にトレースがついている。無難に渡る。土橋さんは木橋をまた越して渡った。槍平小屋に向かう途中で、中崎尾根の斜面にライトを確認。トレースが期待できる。槍平小屋には 6 時 15 分頃に到着。ビバーク用以外の装備を小屋にデポし、6 時 40 分頃槍平を出発。出来れば、千丈



乗越まで行き飛驒沢を降りたい。トレースはあるものの、所々、膝まで埋まることやビバーク用の装備を背負っているため、高度を上げるのに時間がかかった。上部に先行者が見えた。斜度があり急な雪壁を越えると尾根に出た。時間は 9 時前になっていた。しかしながら、天候は回復している。また、気温が高く、残雪期のような装いだ。尾根に出ると、かなり距離を置いて先行者が確認できた。先行者を追って行くと、彼らはラッセルしている。彼らの先にトレースはない。30 代であろう 2 名と 40 才前後と思われる単独行の登山者だった。特に 30 代であろう 2 名はすごい馬力だ。途中、中野さんの体調が芳しくなく、先に下山する。土橋さんと私で、先行者のトレースを追うことにした。2,400mの幕営適地を越え、細いリッチを越え、アップダウンを繰り返し、千丈乗越まで後半分というところで、12 時だ。足は余しているが、ここで引き際と考え、先行者の労をねぎらい、挨拶を交わす。土橋さんと写真を撮り、行動食を食べ、周囲の景色を堪能する。一瞬、雲が迫り、辺りが乳白色となるが、すぐに晴れ、穂高や乗鞍等、すばらしい山々が広がっている。何度も言うが、厳冬期とは思えない暖かさだ。







12 時過ぎに下山を開始、近くの林のある緩傾斜の沢を下る。登り返しはなく、スキートレースを見つけ、14 時前には槍平に戻った。中野さんが TENT を張ってくれていた。皆、早めに夕食を済ませて、シュラフに潜った。日中はさんさんと日光が降り注ぎ、厳冬期の槍ヶ岳でこんなことがあるのかというくらい天候に恵まれた。

**28 日(月) 天候 曇り時々雪**

明るくなって起床した。外はみぞれまじりの雪が降っている。1,900m の高さにいるとは思えないほどの気温の高さだ。ゆっくりと食事を摂り、TENT を撤収して、8 時半頃、槍平を出発。途中、頻回に小休止をしながら下山。下りは楽に感じる。12 時半頃に新穂高登山口に無事下山。今回はベテランリーダーがおらず、多少なりとも不安を感じながらの山行だったが、登頂ならずも、全員怪我なく下山できたことは良かったと思う。



下山後は、民宿ほらぐちに宿泊。汗を流す。山や向けのいい宿でした。

**29 日(火)**

6時半に宿を出発。夕刻に帰北。コロナ禍の影響か？ 帰りの高速も、年末の日中にもかかわらず、渋滞なく、スムーズに走行できました。

敗退したものの、よい勉強になりました。皆様、ありがとうございました。

報告者

中山 正浩